KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

大学案内　2023

京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

大学創設 150 年 plus 1 year

京都府立医科大学は、今年の秋に明治5年の附属病院の前身である療病院の創設から150周年を迎えます。昨年は大学令発布による大学昇格から100周年を迎えました。大学令は、近代国家として高等教育（大学）の在り方を整理し、基準化を行った言わば国家100年の計であり、同時に本学の骨格が定まった出来事です。

この歩みは、優れた近代医学を京都の地に打ち立てると言う崇高な意思の下に、風雪に耐えた先人の努力があってのことです。看護学科も前身を含めて130年の歴史を重ねています。本学の継続は、大学の努力に加えて設置者である京都府の援助、そして何よりも京都府民の本学への信頼が実を結んだものであります。

従って2022年は150年プラス1年目であり、本学の歴史と未来を語る時と考えています。大学に集う私たちは、改めて本学の未来をグランドビジョンとして世に問い、「世界トップレベルの医学を地域へ」のスローガンの元、新たな歴史を歩み始めます。

受験生の皆さん、京都府立医科大学の歴史と未来を一緒に歩みませんか？

京都府立医科大学は、このようなことを考えています。
「社会と時代の変化に対応できる医療人を育成します」

100年前のスペイン風邪大流行、今は新型コロナウイルス感染症の襲来、今後のウイルス感染症に対して「考え、行動できる医療人」を育成します。





「心暖まる安全で安心な高度で先進的な医療を提供し続けます」
　Cureとcareに担保された高度で先進的な医療に取り組みましょう。
「医学と医療の視点から継続して発展できる研究課題に取り組みます」
　医療の課題を基礎的な医学研究と社会実装の双方向から解決します。
「京都に求められている国際交流に真摯に取り組みます」
　世界トップレベルの医学、医療の構築と絶え間ない情報発信に努めます。
「地球環境やワークライフバランスを私達の課題として考えます」
　環境に優しい病院を目指し、多様な社会での医療を適切に提供します。

CONTENTS

01 学長メッセージ

03 大学沿革

05 世界トップレベルの医療を地域へ

06 地域医療実習 ―医学・看護学の共同実習―

医学部医学科

08 医学科の教育方針

09 カリキュラム概要

13 在学生の声

14 卒業生の声

医学部看護学科

16 看護学科の教育方針

17 カリキュラム概要

19 保健師・助産師コースの履修について

21 在学生の声

22 卒業生の声

大学院

23 医学研究科
- 医科学専攻（修士課程）
- 統合医科学専攻（博士課程）

24 保健看護学研究科
- 保健看護学専攻（博士前期課程・博士後期課程）

25 教育スタッフ

27 国際交流

28 研究活動

29 キャンパスライフ・クラブ活動

31 キャンパスマップ・交通アクセス

33 卒業後の進路、減免・奨学金制度等

34 入学試験情報

大 学 沿 革

京都府立医科大学は1872年（明治5年）に設立されて以来150年の歴史を誇るわが国でも最も古い医科大学の一つです。

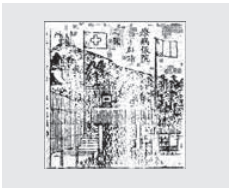
本学の設立に至る経緯は極めてユニークなものです。1868年（明治元年）から京都府を通じて西洋医学の教育病院を設立したいと願っていた京都市民は、自らの寄付によって、京都東山の青蓮院の境内に病院を建て、そこにドイツ人医師を講師に呼んできたのです。多くの医科大学・医学部では、まず大学などの教育施設ができ、その研修の場として附属病院が作られましたが、本学においては、府民の医療を第一とする病院がまず作られ、次にこの病院での医療・医学を担う人材を養成する場として大学が位置付けられました。

1872



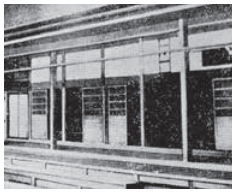
療病院開業式式次第

1872



粟田口青蓮院療病院

1873



療病院（青蓮院）の病室

1880

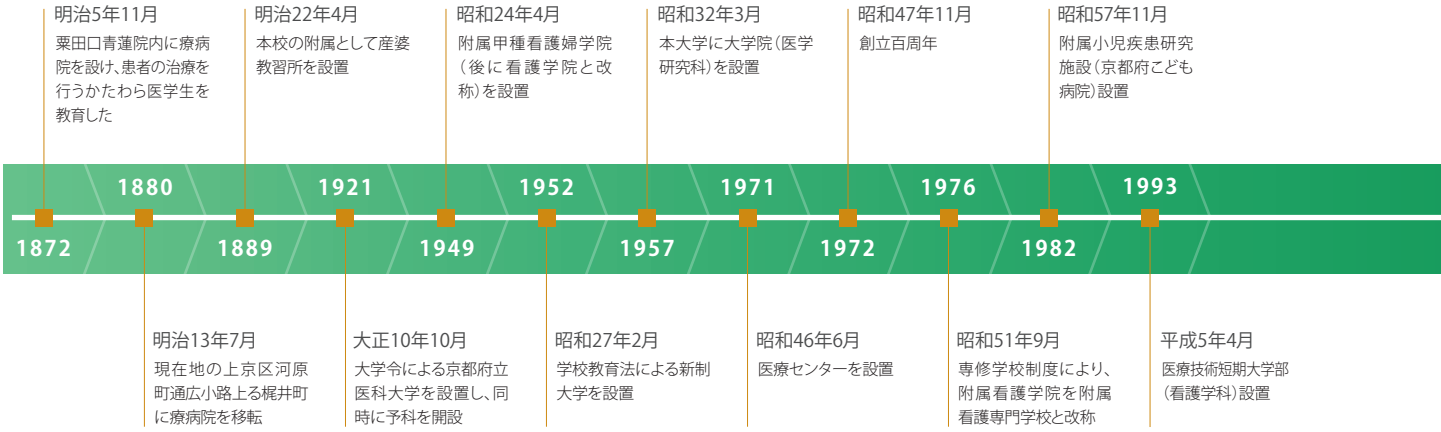


療病院・医学校卒業生

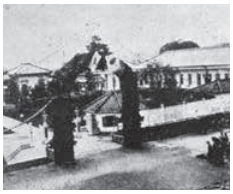
1889



産婆教習所設置認可



1889



医学校10周年

1911



看護婦講習生

1912



臨床講義

1914



医学専門学校本館

1914



レントゲン室

1920



附属療病院玄関

1921



西方から附属病院を望む

1927



医科大学正門

1927



京都府立医科大学学術研究会発会式

1932



医科大学門灯

また、看護学科は1889年（明治22年）に設置された附属産婆教習所に始まり、附属看護専門学校、医療技術短期大学部などの変遷を経て、2002年（平成14年）から医学部看護学科として設置されています。

設立以来、本学は地域社会の要請に応えることのできる優れた医療人、研究者を養成するという使命を担い、今日に至るまでこの設立方針が堅持され、府民から絶大な信頼が寄せられています。

1949



伏見分院正門 臨床実習を終えた附属女子専門部生徒

1950



医科大学西構【現文化芸術会館所在地】

1959



看護学科戴帽式

1967

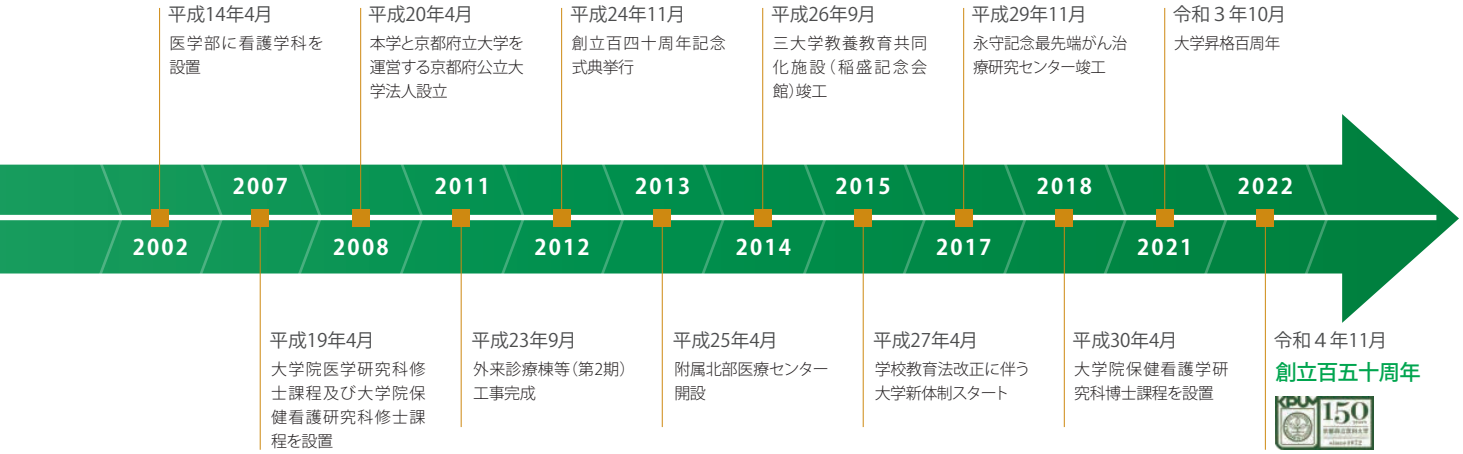


花園分院

1972



看護学科 演習



1972



創立100周年記念式正面

1972



臨床研究棟

1987



大学全景

1992



附属図書館・合同講義棟

2011



外来診療棟等

2012



新大学門

2014



三大学教養教育共同化施設

2017



永守記念最先端がん治療研究センター

2022



創立150周年バナースタンド

創立150周年記念事業特設HP
https://150th.kpu-m.ac.jp/



「世界トップレベルの医療を地域へ」

最先端で高度な医療現場で医師・看護師の基本を学ぶ

京都府立医科大学附属病院

京都府立医科大学附属病院は、東に鴨川や如意ヶ嶽（大文字山）を、西に京都御所を臨む緑豊かな環境のなかで、高度で専門的、かつ安全な医療を提供しています。毎日約2100人の外来患者さんが訪れ、最新の医療機器を備える病棟は病床数693床で運用しています。臓器別・疾病別のメディカルセンターを設置し、関連する診療科が連携した総合的な医療を提供しています。また、ゆったりとした待合スペースや個室化された診察室など、府民の総合的な健康管理の中枢となる医療機関として、最適な医療サービスが提供できる環境を備えています。

本院は特定機能病院、病院機能評価認定（3rdG:Ver1.1）、都道府県がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、第一種感染症指定病院、災害拠点病院などの指定を受けており、各分野で専門性の高い診療を行っています。平成29年には永守記念最先端がん治療研究センターが完成し、平成31年4月からは陽子線治療を開始しました。

本院は、一般の患者さんを診療するとともに、医学部の教育の中で大切な臨床実習の場でもあります。医学科・看護学科の学生はここで実地臨床の基礎を学び、さらに最先端の医学・医療に接しながら、医師・看護師としての基本的な心構えと知識・技能を身につけます。





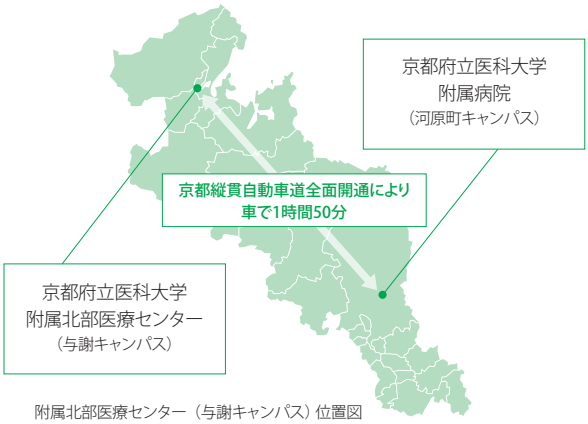

附属北部医療センター

「信頼される全人的医療」を理念に

京都府立医科大学附属北部医療センターは、与謝野町に位置する京都府北部の医療と医学教育の基幹施設です。「信頼される全人的医療」を理念とし、京都府北部の中核病院として地域医療に貢献しています。救急告示病院、地域災害医療センター、京都府周産期医療2次病院など多くの病院機能を有しています。救急隊が常駐する救急ワークステーションの運用をはじめ、丹後医療圏の救急の拠点としてドクターヘリも含めて要請があれば全ての救急患者を受け入れています。

京都府立医科大学の附属病院として、診療・教育・研究の体制を充実させています。総合医療、高度医療の充実を進め、同時に地域医療連携においても地域の中心的役割を果たしています。令和2年度には、がん診断から治療までを一体的に実施する「がん診療棟」が整備されました。令和４年から地域がん診療連携拠点病院に指定されています。また、令和３年４月からは新たに歯科口腔外科の診療を開始いたしました。





附属北部医療センター（与謝キャンパス）位置図

地域医療実習 ― 医学・看護学の共同実習 ―

多職種連携や地域医療の現場を学ぶ

地域を担う使命感を持った医療従事者を育成するために、医学科生と看護学科生の合同により、地域滞在型の医療実習を本学附属北部医療センター、京都府北中部の基幹病院及び当該保健、福祉施設等で実施しています。

臨床現場の空気を肌で感じながら、地域医療の仕組みや各地域の実情を知るとともに、医療チームの一員としての貴重な体験をします。活動の成果は実習後の成果報告会で発表し、活動に関する評価を行います。

地域医療実習実施病院

京都府立医科大学附属北部医療センター、京都中部総合医療センター、綾部市立病院、市立福知山市民病院、
国立病院機構舞鶴医療センター、京丹後市立弥栄病院、京丹後市立久美浜病院





医学部

医学科

School of Medicine

医学科の教育方針

京都府立医科大学は、1872年（明治5年）に設立された「療病院」を起源とする日本最古の医科大学の一つであり、開学から現在までの150年間に1万1千人を超える医師・医学研究者を国内外に輩出してきました。本学の長い歴史と伝統の上に形成された医学科の教育理念が、「人間愛」、「地域貢献」、「国際的視野の涵養」です。

医学科では、幅広い教養、高い倫理観、高度の専門的知識・技術を有しプロフェッショナリズムを持ち合わせた優れた医師・医学研究者を育成するとともに、探究心旺盛で多様なニーズに対応でき、国際的に通用する人材を育成することを教育の使命としています。平成27年度に日本医学教育評価機構の医学教育分野別認証を受審し、平成29年に正式に認証を受けました。以来、「国際認証型」のカリキュラム教育を実施しています。また国が策定した「平成28年度改訂医学教育モデル・コア・カリキュラム」に収載の1790の履修項目を全てカバーし、これに教養・医学基盤、基礎・社会医学、臨床医学の各教室の学体系を基盤とした独自のカリキュラムを加えて、医の心から最新の医学・医療まで広く学べるよう工夫しています。加えて、基礎・社会医学教室の研究配属、京都府中北部地域の中核的な病院での地域医療実習、さらに欧米、アジアを含む海外における交流協定を締結している大学への臨床実習派遣など、様々なプログラムが用意されています。学生と教員との距離が近いことも本学医学科の特色です。歴史と伝統の誇りを持ちつつも自主自立を旨とし、学生一人一人の視点や価値観を尊重した自由・闊達な学びの環境を提供します。

以上のような教育方針を十分に理解され、生涯にわたって学び自己研鑽し、医学・医療・社会に貢献しようという高い志をもった若者を、医学科は求めています。

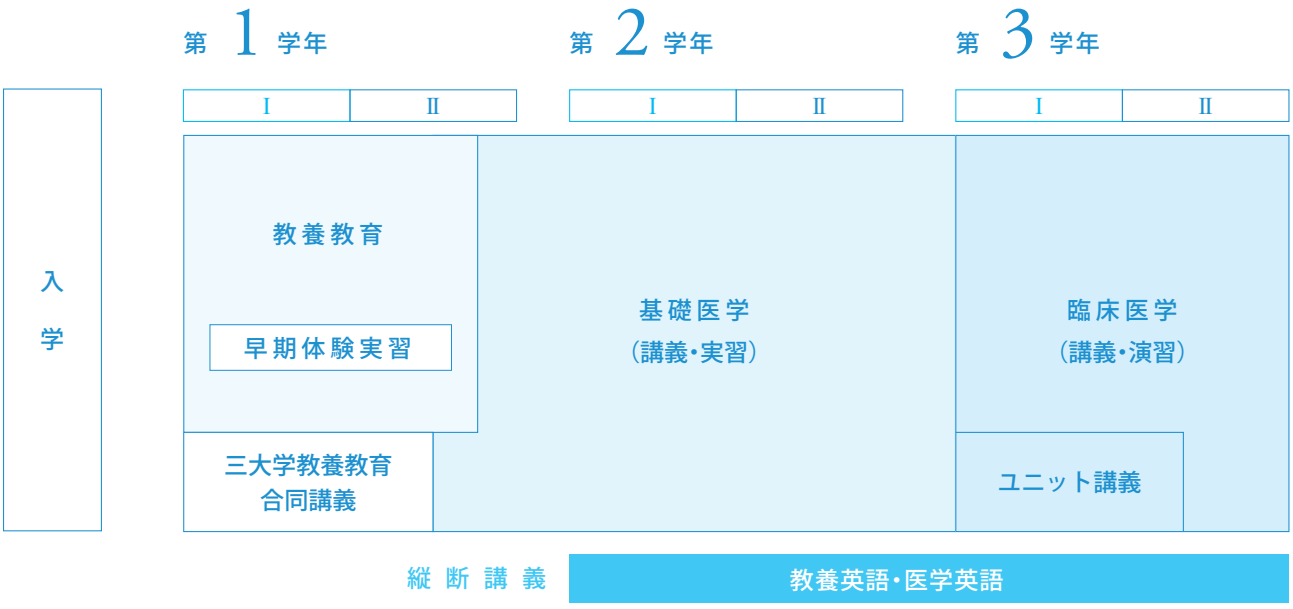
医学科

1

カリキュラム概要

卒前～卒後　一貫教育プログラム

学びの街・京都の恵まれた環境に広がる、河原町、広小路、下鴨の3つのキャンパス。設立以来、脈々と受け継がれてきた教育理念をもとに、歴史と伝統に培われた独自の基礎・臨床医学の統合カリキュラムによって、新たな時代を拓く医師及び医学研究者を育成しています。















教養・医学基盤教育（下鴨キャンパス）

専門分野への導入とともに人間性光る幅広い教養の習得

教養・医学基盤教育では、人類が築き上げてきた知の体系を学ぶと同時に市民としての自己を確立することを目指します。また、医学を学ぶための基盤教育も行います。将来、医師・医学研究者となる医学生は、語学や自然科学の基盤的な学力を養うと同時に、人類・世界の未来を担う幅広い教養と視野を持ち、他者を理解するコミュニケーション能力を養うとともに、現代の諸問題を理解するための知識とその解決策を探る判断力を培う必要があります。本学附属病院での早期体験実習や基礎・社会医学系研究室で、自ら考え主体的に研究に取り組む実習カリキュラムも用意されています。

英語教育

現代の医学における共通言語は英語です。日々新たな医学論文や医療情報は英語で発信され、自分たちの医学上の発見や医療情報を発信する際には英語で行います。本学では、第1学年だけではなく高学年でも縦断講義として英語教育を行い、英文の医学研究論文を読み取る能力、医学研究成果や症例を英語で発表する能力、そして科学的な議論を英語で行う能力の涵養に努めています。令和4年度からは第4学年を対象に国際的な医療コミュニケーション能力の涵養を目的に「国際医学英語」を開講しています。

基礎医学

充実した講義と実習を組み合わせ、医療・医学の根幹を学ぶ本学独自の基礎医学教育

基礎医学は人間の体の構造と機能を究明する学問であり、医学・医療の根幹をなす分野です。生命現象がどのようなメカニズムで精密に制御され調和を保っているのかを分子、形態、機能の多角的側面から学びます。さらに、このような制御や調和が乱れて修復できなくなった時、疾病が起こるということを理解します。第2学年次に解剖学、生理学、分子医科学、病理学、感染病態学、免疫学及び薬理学を学修し、臨床医学を学ぶ基礎を築きます。

臨床医学講義

高度な専門医学を統合的に受け止める能力を涵養する

臨床医学の進歩はめざましく、臨床医には高度に細分化された専門知識と技能が要求されています。同時に、それらを統合して受け止める能力を持ち、幅広い理解の下に臨床医学を実践できる医師が求められています。本学では、このような資質を持った医師の育成を目指して臨床医学の教育をすすめています。また、附属病院が誇る世界トップレベルの最先端医療に触れることにより、医療の持つ無限の可能性を感じることでしょう。

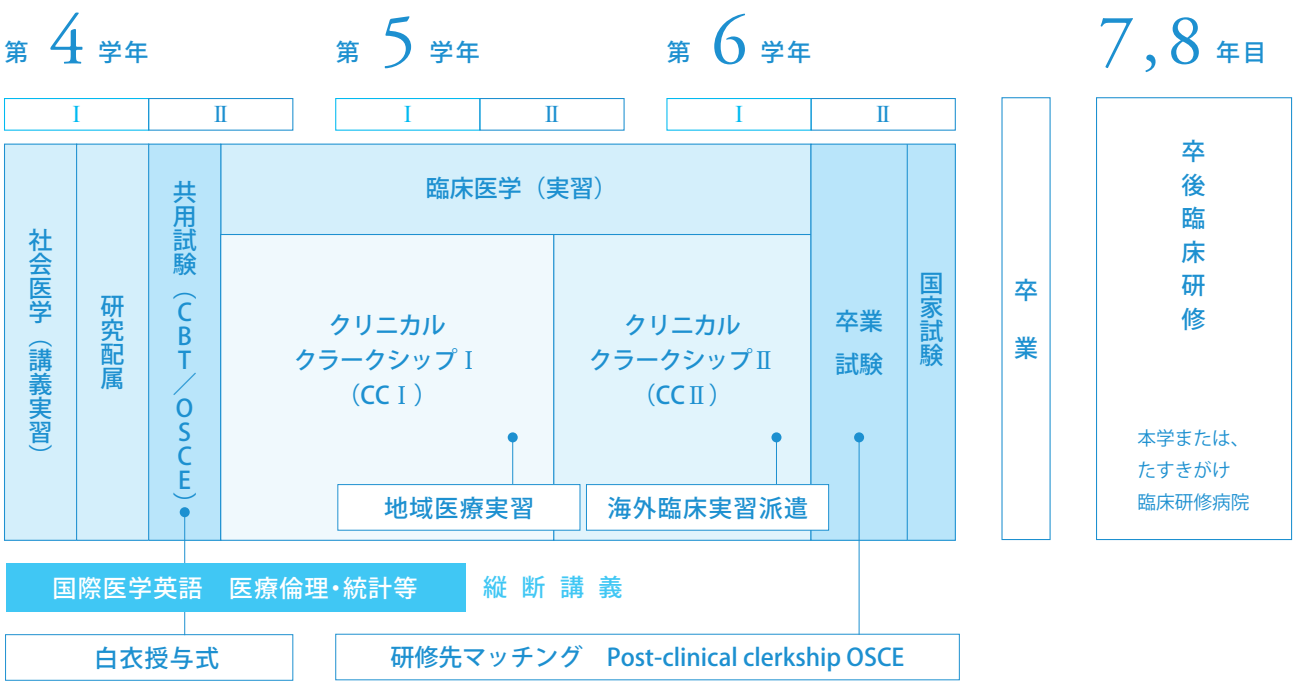
ユニット講義

従来の基礎・臨床医学の枠を超えて、臓器別の疾患をよりよく短期間に理解・習得するために、「循環器」「消化器」「呼吸器」および「神経」の４領域についてはユニット講義を行っています。一定期間に臓器別の内科学・外科学・放射線医学等と（水平統合）、病理学を主体とする基礎医学を有機的に統合し（垂直統合）、期間の終了時にはそれぞれの定期試験を行い評価します。Problem based learning (PBL)やTeam based learning (TBL)の手法を積極的に取り入れ、臓器別メディカルセンター（病棟）での臨床実習に備えます。

医学科

1 カリキュラム概要

入学～卒前臨床研修～卒後臨床研修までの8年間をサポート















社会医学

健康に着目した包括的なケアによる予防、治療の実践手法や現代社会の諸問題に対して法律的・医学的視点から学ぶ社会医学

保健・予防医学では分子レベルの手法から、人々を集団として捉える疫学的手法まで様々な方法を活用して、社会との関わりにおける健康課題の解決を目指します。

また、法医学では現代社会における、犯罪の複雑巧妙化、死因不明死体の増加、死因の複雑化、虐待事案の増加、医療関連死の増加など数々の社会問題への評価・対応を、法律的および医学的視点から学びます。

基礎・社会医学教室への研究配属

第4学年の6月から6週間にわたって基礎・社会医学系教室の研究室に配属されます。ここでは基礎研究を体験し、実験手技を学んだり基礎医学教員の姿に触れたりしてリサーチマインドや能動的に新しい分野に挑戦する態度を養います。意欲のある学生は教官の指導の下に学会での発表や論文執筆を行い、さらに海外の研究室での研究に参加することができます。

CBT/OSCE

第4学年の秋には、全国レベルの統一テストであるCBT（Computer-Based Testing）と、臨床実技の試験であるOSCE（Objective Structured Clinical Examination）を受験します。両者に合格し、全ての臨床医学科目の座学の履修を完了すると"Student Doctor"の称号が与えられ、臨床実習への参加が許可されます。

白衣授与式

臨床実習への参加が許可された者にはStudent Doctorの称号が授与されます。また「白衣授与式」では大学のLogoの刺繍のついた白衣が、学長から授与されます。学生諸君は身の引き締まる思いで白衣に身をつつみ、附属病院での臨床実習に臨みます。

臨床実習（クリニカルクラークシップ：CC Ⅰ, CC Ⅱ）

医師としての第一歩がスタートする臨床実習

第4学年後半から始まる臨床実習では、医療チームの一員となって医療現場を経験し、様々な疾患の病態や診断・治療を学びます。臨床実習で得られる知識や技能はとても大切なものです。CCIでは少人数の班に分かれてすべての診療科や部門をローテートし、主に外来やベッドサイドの患者さんを対象とした実習を行います。ここでは単に暗記した知識だけで対応するのではなく、自ら問題を見出し、自ら問題を探求・解決するという姿勢が求められます。また、医師が患者さんやご家族と如何に関わっていくべきかを学びます。後半のCC Ⅱでは、主として本学の教育関連病院で実習を行い、大学病院とは異なる臨床現場を経験します。各病院の担当医は本学の臨床教授や臨床准教授を兼ねており、大学だけでなく、教育関連病院も一丸となって有機的な臨床実習が行われています。

2 在学生の声



医学科　第2学年
冨永 つかさ（京都府・京都市立堀川高等学校 出身）

所属クラブ：卓球部・KiSA

第2学年からは附属病院に隣接する河原町キャンパスが学び舎となります。

前半は解剖学・生化学・生理学の授業があり、人体の正常な構造と働き、その分子メカニズムを学びます。医学的な対面実習が始まり、解剖実習や組織切片のスケッチなどを通して、形態と機能のつながりの理解を深めています。英語教育にも力が入っており、医学用語を英語で理解する科目もあります。後半は、前半の内容を元に、臨床医学につながる病理学・薬理学・感染病態学・免疫学の授業があり、病気の成り立ちや病態の制御について学びます。覚えるべきことはたくさんありますが、仲間たちと切磋琢磨して、専門課程に進む基礎を築いています。

昨年度から各生徒に担当教員が割り当てられるメンター制度が始まり、コロナ禍で大学に通う機会が少ない中でも、先生に相談しやすい環境になりました。本学では、自ら機会を求めれば成長できるチャンスが転がっています。皆さんと共に充実した学校生活を送れることを楽しみにしております。

医学科　第4学年
大川 量雅（滋賀県・滋賀県立膳所高等学校 出身）

所属クラブ：準硬式野球部



私たちの学年からカリキュラムが大幅に改変されたことで、第4学年では社会医学を学ぶことになります。第３学年までの基礎・臨床医学で学習した各疾患と社会の関係について、理解しやすいカリキュラムだと感じます。また研究室配属の期間があり、各研究室の先生方の下で、基礎・臨床医学の研究について体験できます。年度後半からは臨床実習が始まり、医師になるにあたって実践的な学びを得ることができ、将来の自分をより想像しやすくなるかと思います。

医学以外では、部活動に積極的に取り組んでいる学生が多い印象です。私自身、準硬式野球部で主将をしていますが、自ら練習メニューを考えるなど、自分たちに合った活動で切磋琢磨できます。他学年・他大学の学生と繋がる機会ともなるので、非常に魅力的だと思います。

府立医大では、様々なことに挑戦しやすい環境が整っています。本学に入学し、ぜひ医学や部活動に積極的に挑戦してみてください。その結果として自分の理想の医師像を確立できることを祈っています。



医学科　第６学年
良宇都 有那（大阪府・大阪府立北野高等学校 出身）

所属クラブ：軽音楽部

第5学年の後半から第6学年にかけてクリニカルクラークシップⅡ(以下CCⅡ)と呼ばれる病院実習を行います。第4学年の後半から始まったCCⅠでは全ての科を短いスパンで回っていったのに対して、CCⅡでは1ヶ月に1診療科を回ります。より長い期間同じ科で学ぶことで、その科をより深く理解することができます。また、先生方と一緒に治療方針を考えたり、基本的な手技の補助をさせていただいたり、多職種のスタッフの方と協力することで主体性を養い、チーム医療の必要性を感じることができます。カンファレンスに参加したり論文を読んで発表したりと毎日忙しいながらも充実した生活を過ごしています。大学病院だけでなく本学の関連病院での実習も可能で、地域ごとの医療の特性を知り、より多角的な視野で医療を見つめ直すことができます。

私生活では勉強だけでなく、趣味に部活に励んでいる同級生がたくさんいます。私も軽音部員として日々練習に励んでいます。みなさんが京都府立医科大学に入学して、充実した6年間を過ごされることを楽しみにしています。

3

卒　業　生　の　声



昭和30年卒業　藤田 哲也（本学元学長）
ルイ・パストゥール医学研究センター　分子免疫研究所シニア・フェロー
昭和52年朝日賞、平成２年島津賞　平成８年紫綬褒章

誇らしき哉、わが母校

私が京都府立医科大学を常々誇らしく思うのは、その創立以来一度も中断することなく続いた歴史が150年にも及び、これが東京大学医学部創立に遅れること僅か3年で創立された医学教育機関として、本邦第二位であり、卒業生の数もそれに比例して多いというような物理的な数値だけを意識しているわけではありません。私は、母校の卒業生が実に多彩な分野で活躍しているということを最も誇らしく思っているのです。国内だけでなくアメリカやドイツなどの有名な大学で傑出した活躍をしている教授や研究者たちもおれば、臨床家でありながら岩波文庫で近代詩集を残した詩人、映画監督として一流になった人、作曲家兼演奏家として一世を風靡したのち医系の大学教授になった人など、わが母校がいかにリベラルな人間らしい教育をしてきたか、如実に証明していると思っています。当然でしょうが、臨床医師として京都府を中心に活躍している人の数は一番多く、この意味で母校が地域医療に貢献している程度は、全国の医系大学では最高であることに間違いはありません。一方、看護学科も実は、明治22年、日本政府公認の産婆教習所の開設以前に、明治5年から療病院で、ドイツ人医師ヨンケルが看護師(助産師含めて)の教育を始めており、これは疑いもなく日本で最初の洋式看護学教育の始まりを告げるものでした。私が母校、京都府立医科大学を卒業したのは昭和30年でしたから今年で66年になりますが、私が直接目撃してきた母校の発展振りに、毎日、大きな誇りを感じているこの頃であります。



昭和57年卒業　島田 和明
国立がん研究センター中央病院 院長

個性を尊び、国内外にはばたく医師を育成する我が母校

京都府立医科大学卒業後の進路で悩んだ際に、当時の学長や外科教授の先生方が親身に相談にのっていただき、東京大学の外科教室にご紹介いただいたのが、現在の国立がん研究センター中央病院肝胆膵外科で勤務するきっかけになりました。本学は150年以上に及ぶ歴史のある医科大学です。長く続く伝統ゆえに厳めしい印象を与えがちですが、本学には学生を大事にする懐の深く、温かい教育方針を感じます。皆様にもこのような本学に入学され、個性を尊び、国内外にはばたく医師を目指していただければ幸いです。



昭和58年卒業　大森 浩二
医療法人大森医院　理事長

地域医療への取り組みが評価されて

卒業後は外科に入局し、手術・救急の現場で目の前の患者さんを助けるのに必死でした。開業後は、地域のかかりつけ医として診療を行うと共に、より良い在宅医療を実現するために多職種のチームで患者さんご自身とご家族の思いに寄り添い、看取りなども行っています。また、地区医師会の皆と勉強会を立ち上げたこと、ICTを利用して医療情報の共有化を進めたこと、大規模災害に際し日本医師会災害医療チームJMAT京都の一員として東日本大震災・熊本地震・西日本豪雨災害に出動したことなどが評価され、第5回日本医師会赤ひげ大賞を受賞し、当時の皇太子殿下とお話しする機会にも恵まれました。今も、診療や医師会活動の中で府立医大諸先輩、後輩や同期生に恵まれていることに感謝しています。



昭和63年卒業　大谷 直子
大阪市立大学大学院医学研究科・病態生理学　教授

今に生きています、京都府立医科大学で得たもの

私は学生時代に生化学の講義で、当時米国から帰国直後の先生から最先端のがん研究の話を聞き、研究に強い興味を抱きました。それがきっかけとなり内科研修後、基礎医学者の道へ進み、海外留学も2回経験し、現在に至っています。在学中は部活と勉強、研究に打ち込み、充実した毎日でした。このころに身につけた体力や粘りが、その後の研究と子育ての両立にもつながっていったと思います。若い皆様にはぜひ、いろいろなことにチャレンジし、世界を見据えた医療人を目指してほしいと思います。



平成2年卒業　市川 大輔
山梨大学医学部　外科学講座第一教室　教授

京都から世界へ

卒業後は、附属病院や多数の関係病院で多くの先輩方から教えを受け、数多くの手術症例を経験する機会に恵まれました。また、同窓の先生方が、「医療」だけでなく基礎研究や臨床研究など「医学」分野においても、学内のみならず国内外で活躍されており、そのネットワークは我々の誇りです。歴史溢れる京都の街で豊かな人間性を育みながら、歴史と伝統を備えた本学で学び、国内外で良き医療人として活躍されることを願っております。



昭和56年卒業　原 邦夫
地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター
スポーツ整形外科センター長

国民栄誉賞をいただきました

卒業当時に関節鏡が導入され、臨床医として膝靭帯再建術、半月板手術をしています。スポーツ外傷を中心に当院で2003~18年に行った鏡視下手術は5000例に達し、競技復帰のリハビリに運動生理学的な評価を導入しました。患者さんは高橋大輔氏などオリンピックでメダルを獲得した選手もおられます。女子サッカー日本代表のチームドクターを1989年から勤め、2011年ドイツW杯優勝では「なでしこJAPAN」の一員として国民栄誉賞をいただきました。根気よく継続すれば良いこともあるなと実感しています。



昭和58年卒業　高升 正彦
綾部市立病院　院長

地域医療でがんばっています

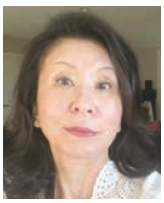
府立医大を卒業後、当時の第3内科に入局し、平成2年から綾部市立病院で勤務、平成30年より院長を拝命しています。最近はGPやCCⅡなどの実習で学生が来ることも多くなり、卒業して時間が経過してからの方が、府立医大のOBであることをより意識するようになってきています。夏期早期体験実習の際に大学の校章の入った白衣を一着いただき、母校愛を感じながら診療しています。「世界トップレベルの医療を地域へ」という理念が実現することを目指して、大学とともに地域医療に従事できることも府立医大の大きな魅力の一です。



昭和62年卒業　中井 浩之
オレゴン健康科学大学医学部 分子遺伝医学 教授・分子微生物学免疫学 教授
オレゴン国立霊長類研究センター神経科学部門上席研究員

京都府立医科大学医学部医学科卒業生の多彩なキャリアパス

医師のキャリアパスは多様化し、医学知識・技能を最大限に生かせる場がますます増えてきています。私の場合、卒後、内科医としての修行の後、米国企業勤務、大学ポスドクを経て米国で大学医学部の教授職に就きました。現在米政府と日米企業から資金援助を得て、最先端の遺伝子治療研究を行うとともに、米国の学生に医学研究の楽しさと魅力を伝えています。本学では、私もそうであったように、多様化したキャリアパスのアドバイス、サポートをしてくれる先輩との出会いがあります。



平成元年卒業　川野 美香
International Health Regulation / Health Security and Environment

世界保健機構（WHO）ジュネーブ本部の窓から

4年の外科の臨床勤務の後、厚生省〔現厚生労働省〕へ医系技官として入省、健康政策局健康指導課、薬務局審査課を経て、世界保健機構(WHO)に勤務22年目になります。京都府立医科大学は公衆衛生の視点が医学教育の随所に織り込まれており、医学だけでなく、それを取り巻くシステムや環境にも目を向ける姿勢が自然と身に着いたように思います。現在はWHOの感染症対策局におり、エボラやコロナの対応に携わる傍ら、WHOのInternational Travel and Healthの改訂も担当しています。



平成26年卒業　藤野 雄三
京都府立医科大学附属病院　大学院生

医師、研究者として患者さんに向き合う

アルツハイマー病やパーキンソン病、ALSなどの神経変性疾患は、確立された予防法や治療法がなく、患者様・家族様・社会全体の重大な健康問題です。私は脳神経内科医と研究者という両面から、これらの疾患に立ち向かいたいという希望を持っています。

本学の魅力は、質の高い臨床力と、豊富な研究の素地があることです。これらは車の両輪のような関係で、より良い医療の実践と発展のために不可欠なものであると考えます。経験豊富な先輩方から、日々新たな刺激を受け、本学の環境で研鑽を積めることは、私にとって大きな財産です。

医学部

看護学科

School of Nursing

看護学科の教育方針

看護学は実践の科学です。19世紀の半ば、F.ナイチンゲールは、ヨーロッパで中世から修道女達によって行われてきた看護を理論づけ、また看護の効果検証に統計学を用いるなど、科学的根拠に基づいた看護を実践することで、現代に繋がる近代看護学の礎を築きました。

本学の看護学科は、我が国における近代看護学教育の黎明期、1889年（明治22年）に開設された京都府医学校附属産婆教習所を淵源とし、130年を超えるこれまでの間に1万人以上の看護職を輩出するなど、ナイチンゲールの存命当時から続く数少ない看護師等養成機関の一つであり、2002年（平成14年）には、京都府で初めての看護系大学（医学部看護学科）となり現在に至っています。

看護職者には生命や人間の尊厳を尊重できる豊かな人間性と創造性が必要です。また、専門的な知識や技術は元より、主体的な看護を実践するための科学的思考に基づく判断力、チーム医療を推進する上での協調性及び調整能力に加え、国際化が進む中、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力も求められます。

長い歴史を通じ伝統として、今も息づく「Heart、Hand、Head」（心と技術と知識のバランスのとれた看護職者の育成）の精神が受け継がれています。

本学の看護学科では、この理念を基底に、全人的な理解の上に立ち看護を展開できる看護職者の育成に向けて、人としての感性を磨き、視野を広げる「基礎・教養科目」、看護学の基礎を学ぶ「専門基礎科目」、専門性を培い、その能力をさらに高める「専門科目」を段階的に学修することで、看護専門職として、また、社会に貢献できる有為な人材として、必要となる総合的な能力の涵養を図っています。

QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の概念が社会に浸透し、Cure（キュア）だけではなくCare（ケア）の重要性に注目が集まる中、Careの追究を学問領域とする看護学の重要性はますます高まっています。

将来に向けて看護を学び続ける意欲と姿勢を持ち、自立した看護職者となれるよう、私たちも学生の皆さんとともに努力を重ねてまいります。

看 護 学 科

1 カリキュラム概要

看護学科では、基礎・教養科目、専門基礎科目、専門科目を配置し、それぞれの講義・演習・実習を通じて、生命及び人間の尊厳を基盤に豊かな人間性と創造性を培い、看護専門職として総合的な能力を有し社会に貢献できる人材を育成するために、以下に示した６つの方針に従ってカリキュラムを組み立てています。

1 生命及び人間の尊厳の理解に基づく高い倫理観の形成、人間性及び環境への深い洞察力の育成
2 看護の専門職として必要な知識・技術・態度とあらゆる看護の場において主体的に看護が実践できる能力の育成
3 科学的思考に基づいた判断力、問題解決能力の育成
4 地域医療やライフステージなど様々な看護ニーズに応えることのできる、保健・医療・福祉との連携・調整を図る能力の育成
5 国際理解とコミュニケーション能力を基にして、グローバルな視野で健康問題を理解し、看護活動ができる能力の育成
6 社会の変化に対応して看護を発展させ、自ら課題を探求し、研究していくことができる基礎的能力の育成

総合的な能力を育む基礎・教養科目、専門基礎科目、専門科目

	基礎・教養科目	専門基礎科目	専門科目		
			看護学の基本	看護学の展開	看護学の統合と発展
生命及び人間の尊厳の理解	生命倫理、人権論など		生活援助論、基礎看護学実習	成人・小児・母性・老年・精神・在宅の演習	
主体的に看護が実践できる能力		人体構造機能論、生化学など	看護基礎理論、看護方法論など	成人・小児・母性・老年・精神・在宅の実習	看護の統合と実践（実習）
科学的思考に基づいた判断力、問題解決能力			ヘルスアセスメント 看護方法論	成人・小児・母性・老年・精神・在宅の実習	研究方法論 看護課程の展開 反復した実施
保健・医療・福祉との連携・調整を図る能力		社会福祉学、医療と経営、家族社会学など		成人・小児・母性・老年・精神・在宅の実習	看護の統合と実践（実習）
国際理解とコミュニケーション能力	英語、中国語、ドイツ語、フランス語、英会話、国際情勢の理解				国際看護・国際保健、国際看護英語
自ら課題を探求し、研究していく基礎的能力					研究方法論、看護マネジメント論、災害看護論など





履修体系

第1学年　第2学年　第3学年　第4学年

専門科目

看護学の統合と発展
- 研究方法論、看護マネジメント論、国際看護、看護教育論、災害看護論、看護の統合と実践
- 地域看護学（地域看護診断学、地域保健活動展開論）
- 助産学（助産学基礎理論、助産マネジメント論等）
- 看護の統合と実践（実習）
- 地域看護学実習（選択）
- 助産学実習（選択）

看護学の展開（理論と実践）
- 看護援助論（成人、精神、小児、母性、老年、在宅）、地域看護学概論等
- 看護学概論（成人、精神、小児、母性、老年、在宅）
- 看護学実習（成人、精神、小児、母性、老年、在宅）

看護学の基本
- 看護基礎理論、看護人間論、生活援助論
- 基礎看護学実習Ⅰ
- 治療援助論、看護方法論、ヘルスアセスメント
- 基礎看護学実習Ⅱ

専門基礎科目
- 健康・疾患・障害の基礎
- 保健・福祉

基礎・教養科目
- 生命及び人間の尊厳
- 人間の理解
- 人間と環境
- 国際理解とコミュニケーション

基礎・教養科目	看護の対象である人間を多角的に理解し、人間性を育む。
専門基礎科目	看護学を支持し、関連する専門的知識を養う。
専門科目	看護学に関わる理論と技術を習得する。

第1学年

基礎教養は看護学舎と下鴨キャンパスで学びます。



第1、2学年

専門基礎科目と看護の基本を学びます。



第3学年

専門科目と看護学実習を学びます。







キャリア教育

第4学年

これまでの学びを統合し看護実践能力を高めるための科目が配置されています。



看護の統合と実践



看護の統合と実践



卒業研究発表会

4年間を通したキャリア教育

看護学科の学生が、自らの将来・人生をしっかりと設計し、自立した職業人としての生涯学習力や専門職業人として共同して働く能力を育むため、4年間にわたり講義、演習、交流、体験、個別指導、個別相談など多様な学習方法を用いたキャリア教育を行っています。

2 保健師・助産師コースの履修について

看護師に加えて、保健師・助産師を目指す人は、地域看護学・助産学の選択科目を履修することができます。
ただし、履修者は、3年次に上がる段階で、希望者の中から選考により決定します。（保健師20名以内、助産師10名以内）

保健師コース　地域看護学選択

【保健師とは】

保健師の働く場所は、都道府県や市町村といった行政機関、学校や企業等があります。保健師は、地域で暮らす様々な年代や健康状態の人々を対象に、健康を守る役割を担っています。両親教室や乳幼児健康診査、高齢者の介護予防、障がい者の保健指導、家庭訪問、感染症対策、保健計画の策定など、その活動範囲はとても幅広くバラエティに富んでいます。

【本学の保健師教育】

本学の保健師養成課程は1951 年に始まり、現在に至るまで京都府内を中心に多くの先輩を輩出しています。本学では、地域で暮らす個人・家族・集団を「みる」、「つなぐ」そして「うごかす」力を大切に育てています。講義科目と現地実習を連動させた学習体系の中で、学生は保健師に求められる知識と実践能力を学びます。





助産師コース　助産学選択

【助産師とは】

江戸時代、お産の介助は産婆として職業化され、仕事の時には大名行列を横切ることが許されるなど、“お産の専門家”として、人々の尊敬と信頼を集めていました。

現在の助産師も、独立して助産院を開業することができるなど、助産行為の専門職として、助産診断を行うとともに、助産ケアを通じて、女性の妊娠・出産、産褥期が心身共に健康に過ごせるよう援助するほか、育児指導や不妊相談、更年期の健康相談などその活動は幅広く、女性の一生、そして家族に寄り添う職業です。

【本学の助産師教育】

1889（明治22）年京都府医学校に附属産婆教習所が設置されてから130年の歴史があり、多くの卒業生が国内外で活躍しています。本学では、確かなエビデンスに基づいた知識や、女性が本来持つ「産み育てる力」を最大限に発揮できる助産ケアを講義・演習・実習で学びます。

地域における育児支援や健やかな思春期の成長発達を支援する助産師の役割は益々拡大しており、本学ではこのように高度な周産期医療を支える質の高い助産師教育を行っています。





3 卒業後について

地域の医療機関や施設において、看護師として従事するほか、保健師、助産師として活躍する道も!

卒業後の進路

卒業に必要な単位を取得することで、看護学士の学位、看護師国家試験の受験資格、また科目の選択により、保健師又は助産師国家試験の受験資格が得られます。

取得できる資格

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師国家試験受験資格（地域看護学履修者）
- 助産師国家試験受験資格（助産学履修者）
- 受胎調節実地指導員申請資格（助産学履修者）
- 養護教諭二種免許

保健師免許取得後、所定科目（※）を修得した者は申請すれば取得可能。

※教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

看護師国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率（%）	全国平均合格率（%）
令和2年	81	79	97.5	94.7
令和3年	88	88	100.0	90.4
令和4年	85	85	100.0	91.3

保健師国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率（%）	全国平均合格率（%）
令和2年	20	20	100.0	96.3
令和3年	20	20	100.0	94.3
令和4年	20	19	95.0	89.3

助産師国家試験結果

	受験者数	合格者数	合格率（%）	全国平均合格率（%）
令和2年	9	9	100.0	99.5
令和3年	10	10	100.0	99.6
令和4年	8	8	100.0	99.4

卒業後の活躍のフィールド

看護師
（専門看護師・高度実践看護師・認定看護師）
- 病院
- クリニック診療所
- 訪問看護ステーション
- 地域包括支援センター
- 老人保健福祉施設

保健師
（管理者・所長・養護教諭［二種免許］※）
※保健師国家試験合格後に申請
- 都道府県保健所・市町村
- 企業
- 健診センター
- 学校

新しいフィールド
- 国際機関
- 政府（厚生労働省）
- 行政
- NPO　その他

助産師
（開業助産師）
- 病院
- クリニック診療所
- 助産院

教育者・研究者
（臨床現場のリーダー）
- 大学院

より高度な看護師を目指して大学院で学ぶ

卒業後は、皆さんの将来に多様な活躍の場が開けます

4 在学生の声



看護学科　第2学年

遠藤 咲季（島根県・島根県立益田高等学校 出身）

所属クラブ：弓道部

入学して2年目となりました。新型コロナウイルスの感染拡大により行動が制限される中で学習内容や日々の生活に対応していけるのか不安もありましたが、同学年の仲間やお世話になっている先輩方、指導してくださる先生方に恵まれ充実した大学生活を送ることができています。

第2学年からは本格的に看護について学ぶ科目も増え、内容も専門的になるため勉強が大変だと感じることもあります。しかし、より実践に近づいている実感を持つことができ、今の学びが将来につながると感じながら日々の学習に取り組んでいます。同じ目標に向かって頑張っている仲間の姿や、丁寧に指導してくださる先生方に支えられて自分自身も頑張ることができる環境が整っていることは本学の良さだと感じています。また、部活動では同学年の仲間や優しい先輩方と一緒に楽しく活動することができ、充実した日々を送ることができます。

これからも座学や演習・実習を通して知識や技術を身につけ、患者さんの支えとなれるような看護職者を目指していきたいと思います。

皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

看護学科

看護学科　第4学年（地域看護学選択）

折戸 美紅（京都府・京都府立福知山高等学校 出身）

私は地域看護学を選択しています。第3学年から本格的に地域看護学の授業がスタートしました。授業や演習では、地域の特性をつかみ、そこからその地域の問題は何であるかを考えたり、実際の家庭訪問を想定したロールプレイを行ったりしています。グループで課題に取り組むことが多く、様々な意見が飛び交うため、個人の学習だけでは得られない学びが多くあり、学びが深まります。地域看護学を選択することによって、大変で忙しい日々となりますが、その分、多くの学びの機会を得ることができます。また、仲間と支え合い、励まし合いながらとても充実した日々を送ることができています。そして、20名と少人数のため、先生方から丁寧なサポートをして頂けます。

地域の子どもから高齢者までの様々な健康状態の方の健康をサポートすることができることは、保健師の大きな魅力の１つであると思っています。

皆さんも本学で素敵な保健師を目指してみませんか。





看護学科　第4学年（助産学選択）

加瀬 直子（京都府・京都府立南陽高等学校 出身）

所属クラブ：陸上競技部

私は助産学を履修しています。第３学年から本格的に授業が始まり、８人という少人数で切磋琢磨しながら助産師を目指して頑張っています。授業では紙上事例を用いてお母さんや赤ちゃんのアセスメントや保健指導をしたり、分娩介助や沐浴、授乳支援などの実技演習をしたりしています。また、周産期の勉強のみならず、性教育や更年期障害への支援など、女性のライフサイクルを支えるための授業も行っています。

助産学履修生は少人数であるため、授業で活発な意見交換をしたり、先生に質問したりしやすい環境が整っています。看護学の講義や実習に加え、助産学の講義や実習をこなすことは大変ではありますが、高い志を持った仲間や、きめ細やかな指導をしてくださる先生方のおかげで、楽しく充実した日々を過ごすことができています。

助産師は赤ちゃんを取り上げる人というイメージが強いかと思いますが、妊娠期からの母子の健康管理や産後の授乳・育児指導、助産院や新生児訪問といった地域での活動など、幅広く活躍できる仕事です。

皆さんも本学で素敵な助産師さんを目指してみませんか。

5

卒 業 生 の 声



母校は看護を温かく見守り育てる母のような存在

本学附属病院 副病院長・看護部長

藤本 早和子　京都府立医科大学附属看護専門学校 平成2年度卒業
京都府立医科大学大学院保健看護学研究科 平成28年度修了

母校である京都府立医科大学附属看護専門学校を卒業後、附属病院に就職して現在に至ります。平成16年にがん性疼痛看護認定看護師を取得し、平成25年には緩和ケア病棟の看護師長として緩和ケアに携わり、平成27年から本学大学院保健看護学研究科において、臨床での疑問を学術的な側面から可視化する方法論を学ぶことができました。

平成30年4月より副病院長兼看護部長を拝命し、京都府民の皆様へ質の高い看護が提供できるよう尽力しています。母校は、様々な形で自分の看護を温かく見守り、育ててくれる「母」のような存在です。皆さんも、この大学で真の看護を育んでいただきたいと願っています。

看護職として学生時代から大切にしてきたこと

京都府立医科大学看護学科同窓会会長　元佛教大学・京都府立医科大学教授

中川 雅子　京都府立医科大学附属看護学院 昭和48年卒業



学生時代の「看護職は患者の医療を支える両輪の1つ」という先生方の言葉が心に残っています。附属病院看護師、看護専門学校教員を経て、聖路加看護大学大学院修了後、母校や佛教大学看護学科で教鞭をとりました。学生時代に患者の立場で考え、患者の代弁者になりなさいという教えは大切な軸となっています。

令和の春からは、看護学科同窓会会長の重責を務めることになりました。看護は人々の人生を、ケアを通して知り、共に悩み、健康を取り戻す喜びを体験できる魅力ある仕事です。母校で看護の道を歩まれる後輩が増えることを楽しみにしております。



現在につながる大学4年間の学び

京都府山城北保健所　主任

川南 明日香　京都府立医科大学医学部看護学科 平成23年度卒業

大学を卒業後、保健師として京都府に就職しました。保健所や本庁で健康づくりや看護職の確保対策などを経験し、現在は山城北保健所で結核対策を中心に担当しています。

在学中は、実習やボランティアに参加し、地域の人々とふれあう中で、様々な視点を持つこと、過去や未来も含めてその人の人生を一体的に考えることの大切さを学びました。大学での学びや経験は、今でも気付きに繋がることがあります。

実習で悩むことはありましたが、友人や個別に相談にのってくださる先生方に支えられ、充実した学びの時間を送ることができました。勉強だけでなく、いろいろな経験を通して人と関わり、看護職者を目指して有意義な学生生活を過ごされることを願っております。

「看護に向き合うための大切な土台」を作ってくれた母校

本学附属病院 C5号病舎

久保 亘　京都府立医科大学医学部看護学科 平成29年度卒



本学の何よりの特徴は、歴史のある看護学科であり、多くの卒業生が活躍する附属病院で実習ができ、熱心に指導してもらえることだと思います。私も学生だった頃はとてもお世話になりました。現在、学生だけでなく後輩ナースを教える立場になっていますが、学生の頃に教えて頂いた貴重な知識や経験を生かし丁寧に関わらせて頂いています。指導側になって改めて感じる本学の大きな強みは、基礎を学びながらも、臨地実習の場がすぐそばにあること。この環境は、看護師としての大切な土台を作ることができると思います。

学生時代から、もう10年近く看護に向き合っていますが、看護の世界はとても奥深く、まだまだ勉強不足だと感じるところばかりです。男性の方は看護師を目指すことに、少しためらいを感じている方もおられると思いますが、実際に働くとそんなことは忘れてしまうくらいやりがいのある仕事です。男性だからこそ気付けること、患者さんの役に立てることもあります。本学で皆さんにお会いできる日が来ることを楽しみに待っています。



大学院での学びについて

京都府立医科大学医学部看護学科母性看護学　助教

前田 圭子　京都府立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程 令和２年度修了

大学卒業後、看護師、助産師として臨床現場で働き、後輩や学生の教育にも携わっていました。そして、教育の難しさを痛感しており、教育と研究についてさらに学びを深めたいと本学大学院保健看護学研究科に進学しました。

大学院では、主体的に学ぶ姿勢はもちろん、一緒に学ぶ仲間は様々な年代の医療関係者であり、専門分野の知識、看護観、倫理観が豊富である仲間との交流は、互いに刺激し合いながら学習することができました。専門的な知識と倫理観、研究に対する基礎的能力、さらに教育に必要な知識と技術についても学修できました。有意義な学生生活を過ごすことができ、私の財産となっております。

専門的知識と刺激し合える仲間との出会い、学び続ける姿勢を高めることができる本学の保健看護学で有意義な学生生活を送られることを願っております。

大 学 院

Graduate School of Medical Science

医学研究科

医科学専攻（修士課程）　統合医科学専攻（博士課程）

医科学専攻（修士課程）　定員：10名　修業年限：2年　学位：修士（医科学）

学びの意欲にあふれる他学部の卒業生を対象に医科学の基礎的教育を体系的に提供

修士課程は、理学、薬学、工学などの医学以外の大学の学部を卒業後、医科学に高い志向性を持ち、大学院においてさらに研究を深めたいと願う学生に対して、医科学の基礎的教育を体系的に提供し、個々の特性を生かして医学研究の学際的展開を図りうる研究者、技術者、ヘルスサイエンスの専門職として質の高い人材を育成することを目的としています。そして専攻や分野の別を超えて、研究マインドと優れた研究能力を備えた医療系人材の養成を目指しています。

修士課程には、がん領域と希少難病領域を含むゲノム医療全般に対応可能な認定遺伝カウンセラー®を養成するため、「遺伝カウンセリングコース」を設置しています。

医学隣接領域の背景をもつ学生が、本修士課程を通じて、出身領域と医科学を融合させ、これからの医科学分野をリードし得る優れた研究者、技術者や、ヘルスサイエンス分野の高度な専門職として羽ばたいてほしいと期待しています。

統合医科学専攻（博士課程）　定員：70名　修業年限：4年　学位：博士（医学）

世界をリードする創造的医学人材の育成

博士課程では、グローバルに発信する先端医学研究とローカルに実践する高度先端医療を実現できる人材育成を目指しています。地域に根ざしそこに暮らす人々に寄り添う医学・医療を実践してきた本学には、地域ネットワークやレジストリデータなどの特色あるリソースの基盤があります。また、独創性の高い世界レベルの基礎研究を発信してきた歴史もあり、基礎的分野から臨床医学まで、高度かつ融合的な医科学研究の指導を行います。

専門特化された履修内容及び充実の研究指導体制により、国内外の研究機関で活躍する優れた研究者を輩出

博士課程には「総合コース」、「がんプロフェッショナル養成専門コース」、「法医臨床医・法歯科医・法医専門医養成コース」があります。総合コースでは専門領域として、地域医療・社会医学、発達・成育医科学、先端医療・ゲノム医学、生体情報・機能形態学、病態解析・制御医学、機能制御・再生医学の6分野が置かれています。

がんプロフェッショナル養成専門コースでは質の高いがん専門医の養成を目的として、がんに特化した基幹科目を履修し、がん診療の専門的教育を受けながら密度の高い大学院教育を受けることが出来る環境を提供しています。

法医臨床医・法歯科医・法医専門医養成コースは、本学、滋賀医科大学、大阪医科薬科大学の３大学が共同で法医学の知見・能力を臨床医学等に活用できる医師、歯科医師を養成することを目的としています。

大学院修了後は、大学教員や研究機関などで、また保健行政機関や関連病院などで、専門的知識を生かした医学研究者・高度医療人として活躍する人材が多数います。



大 学 院

Graduate School of Nursing for Health Care Science

保健看護学研究科

保健看護学専攻（博士前期課程）　保健看護学専攻（博士後期課程）

現代的なヘルスケアニーズに即した研究と実践

医療の飛躍的進歩や多様化、急速に進展する高齢化に伴い、高度医療の現場や地域社会において質の高い看護実践能力を備えた看護職者が求められています。

京都府内で初めての看護系大学院として2007年（平成19年)に開設され、12の研究領域を有する保健看護学研究科（博士前期課程）では、2011年（平成23年)にがん看護専門看護師（がんCNS）コースを設置するなど、高度な専門性を持った看護職者や教育・研究者として必要とされる能力を涵養しています。

また、2018年（平成30年）開設の博士後期課程では、臨床、地域包括ケアなど多様な分野で指導的に活躍できる高度専門職業人及び学際的な保健看護学の教育・研究者の育成を図ります。

保健看護学専攻（博士前期課程）

定員：8名　修業年限：2年　学位：修士（保健看護学）

博士前期課程では、共通科目と専門科目の学修を通じて、高度で専門的な知識と技術に裏付けられた看護実践力と豊かな人間性や高い倫理観を涵養し、「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念のもと、保健医療の分野における学際的展開ができる保健看護学の研究者及び指導力を発揮できる高度な専門職業人を育成します。

研究領域

- 老年・在宅看護学
- 地域看護学
- 女性生涯保健学
- 母性看護学・助産学
- 臨床健康科学・臨床腫瘍学
- 看護倫理・管理学
- 基礎看護学
- 成人看護学
- 精神看護学
- 小児発達保健学
- 小児看護学
- がん看護学

がん看護専門看護師（CNS）コース

本コース修了者は日本看護協会の認定審査を経て、がん看護専門看護師の資格を得ることができます。 また、2017年（平成29年）からは38単位教育課程として、ケアとキュアを統合した高度な看護実践能力を有するがん看護専門看護師を養成しています。

保健看護学専攻（博士後期課程）

定員：3名　修業年限：3年　学位：博士（保健看護学）

博士後期課程では、健康的な地域づくりを支えるための看護実践に活用可能な理論構築やシステム開発を目指し、科学的な思考に基づいた看護ケアニーズを解決するための高度な教育・研究を推進します。また、研究者として自立して研究活動を行うために必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識の涵養を通じて、保健看護学の研究推進に必要な高い倫理観、保健看護学に裏付けられた高度な研究能力と実践能力や教育能力を備えた高度な専門職業人及び学際的展開を図ることができる保健看護学の教育・研究者を育成します。

研究分野

- 基盤実践保健看護学
- 広域実践保健看護学

1 教育スタッフ

京都府立医科大学の教育スタッフは、いずれも様々な分野の最先端で活躍してきたスペシャリストです。
医師や看護職者を目指して学ぶ学生たちが、次世代の医学や医療現場で活躍できるよう、教員一人ひとりが持つ生きた知識やノウハウを活かした、高度で専門的な教育を実践しています。

学長
竹中　洋



附属病院長
夜久　均



副学長（教育担当兼施設整備計画担当）兼学生部長
橋本　直哉



副学長（研究担当）
佐和　貞治



副学長（地域医療担当）兼医療センター所長
大辻　英吾



副学長（総務担当）兼附属図書館長兼総合情報センター長
加藤　則人



■ 医学科

●教養教育

人文・社会科学教室
教授　瀬戸山晃一
研究教授　八木　聖弥

第一外国語教室
教授　木塚　雅貴

数学教室
教授　長崎　生光
講師　吉井　健悟

物理学教室
准教授　川野　輝彦

化学教室
教授　大庭　誠
准教授　内田　智士

生物学教室
教授　小野　勝彦
准教授　野村　真

●基礎・社会医学

解剖学教室
生体構造科学部門
教授　田中　雅樹
准教授　松田　賢一
講師　山田　俊児
講師　田口　勝俊
生体機能形態科学部門
教授　八代　健太
講師　小林　大介

生理学教室
細胞生理学部門
教授　樽野　陽幸
統合生理学部門
教授　八木田和弘【研究部長】
講師　梅村　康浩
講師　小池　宣也
講師　土谷　佳樹

分子医科学教室
分子生化学部門
教授　奥田　司
准教授　栗原　康通
講師　吉田　達士
ゲノム医科学部門
教授　田代　啓
准教授　中野　正和

病理学教室
細胞分子機能病理学部門
教授　田中　秀央
准教授　原田　義規
分子病態病理学部門
教授　伊東　恭子
准教授　宍戸由紀子
講師　藤本　崇宏

感染病態学（微生物・医動物）教室
教授　中屋　隆明
講師　大道寺　智
講師　渡邊　洋平

免疫学教室
教授　松田　修
准教授　岸田　綱郎
講師　新屋　政春

薬理学教室
教授　楳村　敦詩
研究准教授　岩田　和実

保健・予防医学教室
予防医学部門
教授　武藤　倫弘
講師　渡邉　元樹
講師　宮本　真吾
公衆保健科学部門
講師　小山　晃英

法医学教室
教授　池谷　博
准教授　新谷　香
講師　井戸田　望
講師　市岡　宏顕

生物統計学教室
教授　手良向　聡

医療フロンティア展開学
准教授　髙木　智久
講師　今井浩二郎

創薬医学
准教授　堀中　真野

基礎老化学
講師　渡邊　義久

医療レギュラトリーサイエンス学
教授　林　憲一

●臨床医学

内科学教室
内分泌・免疫内科学部門
教授　福井　道明
病院教授　川人　豊
講師　河野　正孝
講師　濵口　真英
循環器・腎臓内科学部門
教授　的場　聖明
准教授　中村　猛
准教授　全　完
講師　白石　裕一
講師　玉垣　圭一
講師　星野　温
呼吸器内科学部門
教授　髙山　浩一
准教授　山田　忠明
講師　金　永学
消化器内科学部門
教授　伊藤　義人
准教授　小西　英幸
准教授　保田　宏明
講師　石川　剛
講師　十亀　義生
講師　森口　理久
講師　山口　寛二
講師　吉田　直久
血液内科学部門
教授　黒田　純也
准教授　志村　勇司
脳神経内科学部門
教授　水野　敏樹【国際学術交流センター長】

准教授　笠井　高士
講師　尾原　知行
講師　能登　祐一

外科学教室
消化器外科学部門
教授　大辻　英吾
【副学長・医療センター所長】
准教授　藤原　斉
准教授　窪田　健
講師　生駒　久視
講師　栗生　宜明
講師　塩崎　敦
移植・一般外科学部門
講師　昇　修治
内分泌・乳腺外科学部門
教授　直居　靖人
講師　阪口　晃一
心臓血管・小児心臓血管外科学部門
准教授　神田　圭一
准教授　沼田　智
講師　小田晋一郎
呼吸器外科学部門
教授　井上　匡美
講師　下村　雅律
小児外科学部門
講師　青井　重善
形成外科学部門
病院教授　沼尻　敏明
講師　河原崎彩子

脳神経外科学教室
教授　橋本　直哉
【副学長・学生部長】
准教授　立澤　和典
講師　髙橋　義信

整形外科学教室
教授　髙橋　謙治
准教授　白井　寿治
准教授　生駒　和也
講師　岡　佳伸
講師　小田　良
講師　髙取　良太
講師　寺内　竜
講師　長江　将輝

講師　牧　昌弘

スポーツ・障がい者スポーツ医学教室
准教授　新井　祐志

リハビリテーション医学教室
教授　三上　靖夫
講師　河﨑　敬
講師　大橋　鈴世

産婦人科学教室
教授　森　泰輔
准教授　カーン　カレク
講師　藁谷深洋子
講師　小芝　明美

小児科学教室
腫瘍・血液・免疫小児科学部門
教授　家原　知子
准教授　秋岡　親司
講師　今村　俊彦
講師　大曾根　眞也
神経・内分泌代謝・新生児小児科学部門
講師　土屋　邦彦

眼科学教室
教授　外園　千恵
病院教授　横井　則彦
講師　上野　盛夫
講師　稗田　牧

皮膚科学教室
教授　加藤　則人
【副学長・附属図書館長・総合情報センター長】
准教授　益田　浩司
講師　浅井　純
講師　峠岡　理沙

泌尿器科学教室
教授　浮村　理
准教授　本郷　文弥
講師　内藤　泰行
講師　藤原　敦子

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
教授　平野　滋
准教授　安田　誠
講師　瀧　正勝
講師　杉山庸一郎

精神医学教室
教授　成本　迅

准教授　富永　敏行
講師　中前　貴
講師　松岡　照之

放射線医学教室
教授　山田　惠
准教授　鈴木　弦
講師　赤澤健太郎
講師　後藤眞理子

麻酔科学教室
教授　佐和　貞治
【副学長】
准教授　上野　博司
講師　石井　祥代
講師　柴﨑　雅志
講師　内藤　慶史

感染制御・検査医学教室
教授　貫井　陽子
准教授　稲葉　亨

救急医療学教室
教授　太田　凡
講師　山畑　佳篤

病理学教室
人体病理学部門
病院教授　小西　英一
講師　宮川　文

総合医療・医学教育学教室
講師　丹羽　文俊

疼痛・緩和医療学教室
教授　天谷　文昌
【教育センター長】
講師　小川　覚

歯科
病院教授　金村　成智
講師　山本　俊郎

●教育センター
講師　金子　美子

●中央研究室
RI センター
研究教授　勝山　真人
実験動物センター
准教授　大塚　哲

■ 附属北部医療センター　病院長　落合登志哉

■ 看護学科

●看護学講座
基礎看護学領域
准教授　滝下　幸栄
講師　山本　容子
看護倫理・管理学領域
教授　吾妻　知美
【看護学科長】
成人・がん看護学領域
教授　吉岡さおり
准教授　室田　昌子
講師　佐伯　良子
講師　越智　幾世
講師　羽場千佐子

精神看護学領域
教授　郷良　淳子
講師　占部　美恵
小児看護学領域
准教授　原田　清美
講師　馬場口喜子
母性看護学・助産学領域
教授　松岡　知子
講師　吉岡友香子
老年・在宅看護学領域
教授　毛利　貴子
講師　川上　祐子

地域看護学領域
教授　志澤　美保
准教授　伊藤　尚子

●医学講座
呼吸器外科学領域
教授　島田　順一
産婦人科学領域
教授　楠木　泉
小児科学領域
教授　森本　昌史

（令和４年７月１日現在）

2

国 際 交 流

本学では、現在の多様化・融合化・国際化する教育研究の拡がりを踏まえ、学外の大学等との連携・学術交流を積極的に推進しています。

海外の大学とも学術交流協定等を締結しており、このうちオクラホマ大学（アメリカ）、リーズ大学（イギリス）、エディンバラ大学（イギリス）には医学生を派遣し、臨床実習を実施しています。また、医学科では研究配属の期間を利用しての 海外研究室への派遣も行われているなど、2021年に策定した「国際化推進プラン2021」の下、医学科、看護学科とも派遣先の一層の拡大に向けて取り組んでいます。

なお、2019年にはチュラロンコン大学（タイ）やサント・トーマス大学（フィリピン）、2020年にはチェンマイ大学（タイ）や国立シンガポール大学とも交流協定を締結するなど、アジアの大学との交流も進めています。



We can show you the world !!
学生団体KiSA

代表 医学科 第4学年
岡田 優人さん（京都府・洛星高校出身）







KiSA (KPUM International Student Association)は2019年4月に発足した本学公認の学生主体の国際交流団体です。外国人留学生と本学学生の交流促進を目指して活動しています。

現在KiSAでは、オンラインを活用した海外の協定校とのワークショップを年に数回開催しています。主に英語でのプレゼンテーションとディスカッションを通してそれぞれの文化について理解を深めるとともに、フリートークコーナーではコロナ禍での学生生活について話をするなど気軽な日常会話を楽しんでいます。

また、留学生が来日した際に小旅行やイベントを企画し、交流を深めることもKiSAの活動内容のひとつです。コロナ禍なので制限もありますが、その中でも状況に応じてオンラインと対面活動を使い分けて活動しています。

他にも、KiSAメンバーの英語力向上のために、日頃から英語での京都紹介の練習を行ったり、内部交流会で英会話の練習を重ねたりするなど、普段から英語に親しむようにしています。

長い歴史を持つこの京都の地で、国際交流に関わってみませんか？

みなさんのご参加をお待ちしています！

卒業生の声







得たものいっぱい、国際交流！

2019年度卒業生　白石 真士さん

入学して1－2年のうちに、本学に交換留学で来られる海外の医学生と交流する先輩方からお誘いを受ける機会があり、漠然と国際交流に興味が湧いてきました。

大学6回生ではオクラホマ大学に派遣を受け、米国の家庭医療の現場を垣間見る機会をいただきました。勉学そのものもさることながら、人と人との交流が一番印象深かった体験でした。そして、人種的・宗教的背景も異なる環境下で、改めて自分が何者なのか、考えるきっかけにもなりました。

こうした学生時代に出会った当時の海外の医学生とは時折連絡を取り合うことがありますし、どんどん活躍されている姿を見て、励みになることもあります。

卒後も、全く英語と無縁な生活ではありません。論文を生情報で読む、留学生が身近に来る、自分が留学する・・・入学してから、そして卒業してからもきっとワクワクする機会が出てくると思います。まずは、上手い下手気にせず、カタコトでも、ジェスチャーだけでも、小さな一歩からでいいんです。ぜひ、日頃からちょっとずつアンテナを張って、チャンスを少しでも活かしてみませんか？

3

研 究 活 動

京都府立医科大学は、最先端の生命科学・医学研究を推進し、数多くの成果を
世界の学術領域や医療の現場に発信しています。

京都府立医科大学の研究分野におけるランキング

※(　)内は前回の順位、大学数は2021年度の数（出典：AERAムック『大学ランキング2023』）

科学研究費補助金総額（2021年度）※教員1人当たり

金　額	全公立大学中（98大学）	国公私立医科大学中（26大学）	全大学中（793大学）
3,017千円	1位（1）	2位（2）	14位（12）

【腸内細菌解析研究を通じて地域住民の健康・長寿を目指しています】

日本人の腸内細菌叢は欧米人の腸内細菌叢は大きく異なっており、5つのタイプに分類出来ること、特に、Bifidobacteriumビフィズス菌の存在が特徴的であることを発見しました（図１）。このタイプ分類毎に特徴的な食生活との関連があること、タイプ分類毎に様々な疾病と関連があることも明らかにしており、検診事業などの臨床現場へ展開しています。

また、京都府立医科大学では「世界トップレベルの医学を地域へ」を理念としており、「京都府における基幹大学・病院として、地域医療に貢献する」ことを基本方針の一つとして掲げています。この理念・基本方針に寄り添い「地域に貢献し、かつ、世界に発信出来る」、地域に根ざした医学研究を数多く展開しています。

その一つとして、京都府の長寿地域である京丹後地域に、2017年に長寿・地域疫学講座（代表：的場聖明教授）を開設し、この地域の高齢者の健康長寿の秘密を探る研究を開始しています。この研究においても腸内細菌の解析を行い、この長寿地域に居住する健康な高齢者は野菜・豆類に多く含まれる食物繊維を活用する酪酸産生菌を多く保持していることを発見しました（図２）。この地域を通じた研究結果は、健康・長寿を実践するための食生活へのヒントとなっており、この研究成果を基に健康長寿を手に入れる食情報の普及を図っています。

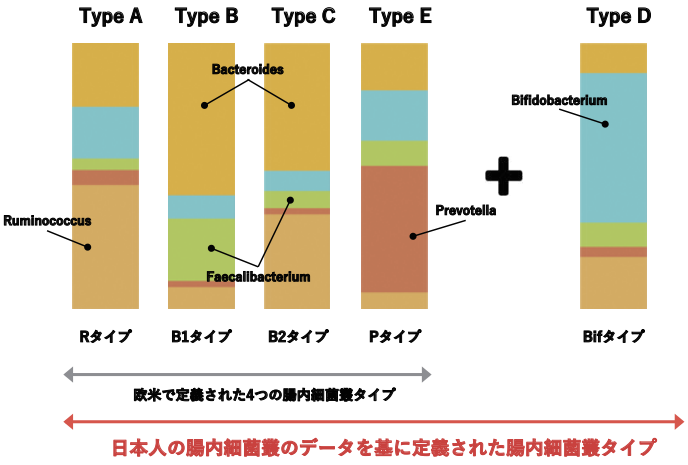


図１　日本人における腸内細菌叢のタイプ

日本人の腸内細菌叢は、欧米人で一般的に報告されている４タイプと異なり、ビフィズス菌を多く有するタイプを加えた５タイプに分類される

Takagi T, Naito Y, et al. Microorganisms. 2022 Mar 20;10(3):664.改変引用

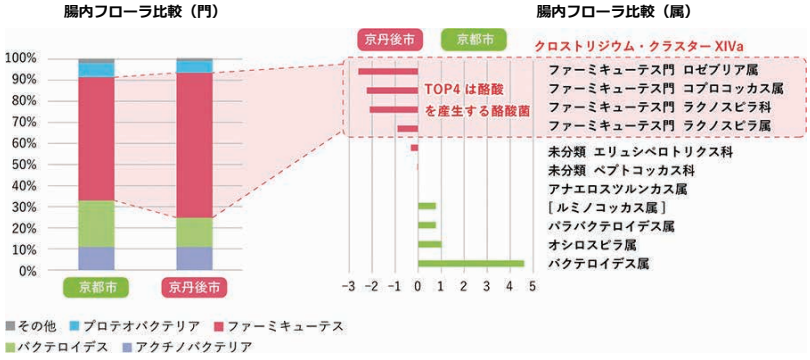


図2　65歳以上の高齢者を対象にした京都市内と京丹後市の腸内細菌叢の比較

京丹後では、京都市内と比較して、プロテオバクテリア門、バクテロイデテス門が減少し、ファーミキュータス門が増加し、属レベルではロセブリア菌などの酪酸産生菌の占有率が高い。

Naito Y, Takagi T, et al. J Clin Biochem Nutr 2019, 65: 125-131.改変引用

髙木智久准教授、内藤裕二教授（医学研究科）ら

CAMPUS LIFE

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

4 April

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 学生定期健康診断
- 東京慈恵会医科大学との定期戦



5 May

- 追悼法要（納骨式）

6 June

- 広小路音楽の夕べ



7 July

- 前期試験（医1・看1〜3）
- 大学院学位授与式



8 August

- 夏季休業
- 夏のオープンキャンパス
- 西日本医科学生総合体育大会
- 夏期体験実習（医）〜9月

9 September

- 京都府北部地域医療実習（医5・看3）
- 基礎看護学実習Ⅰ（看1）（実習スタート）
- CBT（医4）

10 October

- 解剖体秋季追悼式
- OSCE（医4）

11 November

- 創立記念日
- トリアス本祭
- POST-CC OSCE（医6）



京都府立医科大学は
2022年に創立150周年を迎えます。

記念式典
2022年11月5日（土）
国立京都国際会館

12 December

- 冬季休業
- 白衣授与式（医4）
- 臨床実習スタート（医4）



1 January

- 臨床実習スタート（医5）
- 大学院学位授与式
- 後期試験（医1・看2）



2 February

- 医師・看護師等国家試験
- 後期試験（看1）

3 March

- 卒業式
- 春季休業



Club クラブ活動

学生・クラブ活動紹介（150周年特設サイト）
(https://150th.kpu-m.ac.jp/future/student/)

体育部【全19部】

本学はクラブ活動が盛んで、多くの学生がクラブに所属しています。学生が最も力を入れている大会に西日本の44医学部が参加する「西日本医科学生総合体育大会」があります。また年に一度、東京慈恵会医科大学との交流試合が行われています。

- サッカー
- ラグビー
- 弓道
- 剣道
- バドミントン
- バスケットボール
- 柔道部
- 陸上競技
- 硬式庭球
- 卓球
- 水泳
- フットサル部
- ハンドボール部
- 自転車競技部
- 軟式庭球
- ヨット部
- ワンダーフォーゲル部
- 準硬式野球部
- バレーボール部

文化部【全13部】

本学の文化部は様々な分野にわたり大学と連携した活動を展開しています。他の大学との交流も盛んであり、鴨川のほとりという恵まれた環境の下で各々の学生が豊かな大学生活を謳歌しています。

- 写真
- 美術
- 音楽部交響楽団
- 混声合唱団たちばな
- 総合芸術
- ライフサポート
- 茶道
- 医道
- 東洋医学研究会
- AIメディカル研究会
- 囲碁・将棋
- 軽音楽
- ESS

コロナ禍の学生生活

詳細はこちら（京都府立医科大学広報誌The KPUM TIMES）
(https://www.kpu-m.ac.jp/doc/newsletter/files/kpum_times_vol8_web.pdf)

医学科１年生から

コロナ禍によって、下鴨キャンパスに訪れる機会は試験と実習の時のみとなってしまい、入学してから他の学生と関わることがほとんどなく、寂しい気持ちはあります。しかし、オンラインの学生生活であるからこそ、空いた通学時間を活かして、自身で学びたいことに勤しむことができます。対面授業が始まった時に、自分が医学生だと心から実感出来るのが楽しみです。

自分なりの工夫をして臨んだCCI　医学科5年生から

CCⅠ（クリニカルクラークシップ）は、実習時間が通年より減少し、その分はオンライン講義となり、実習に即した課題を各先生方が出してくれました。自身も実習のチャンスを無駄にしないよう予習をして本番に臨むなどの工夫をしました。
コロナ禍での臨床実習では、防護服、ゴーグルなどで感染対策をした上で、個人的にも身なりをきちんと整えるなど清潔感を意識し、少しでも患者さんに安心していただけるよう心掛けました。いつもとは違う医療現場に触れたことは貴重な経験だったと思っています。

メンター制度の紹介（医学科）

コロナ禍においては、繋がる機会が減少し、大学生活に欠かせない友人関係の構築が困難になりました。精神的・心理的悩みを持つ学生への対応は大学の重要な課題です。

本学では、今まで以上に細やかに学生に寄り添っていくために、学生と教員、大学をつなぐ「メンター制度」を2021年10月よりスタートしました。メンター教員1名あたり学生3名を担当します。

オンライン授業でも手応えがありました　看護学科2年生から

コロナ禍で1年生の夏まで対面授業を受けたことがありませんでした。けれど、京都府立医科大学の専門看護師や認定看護師の先輩方の講義を通して、画面越しにも技術と知識、人としての温かさを感じ取ることができ、学びという点で不安を覚えることはありませんでした。1年生の病院実習も学内演習の形式で、学生を半々に分け、曜日を変えて行われました。先生方ができる限りの態勢を取ってくださったことに感謝しています。コロナの状況に合わせてカリキュラムを組んでいただけており、感染予防の意味でも学ぶことに対しても安心材料となっています。

非常時での助産実習は貴重な経験に　看護学科4年生から

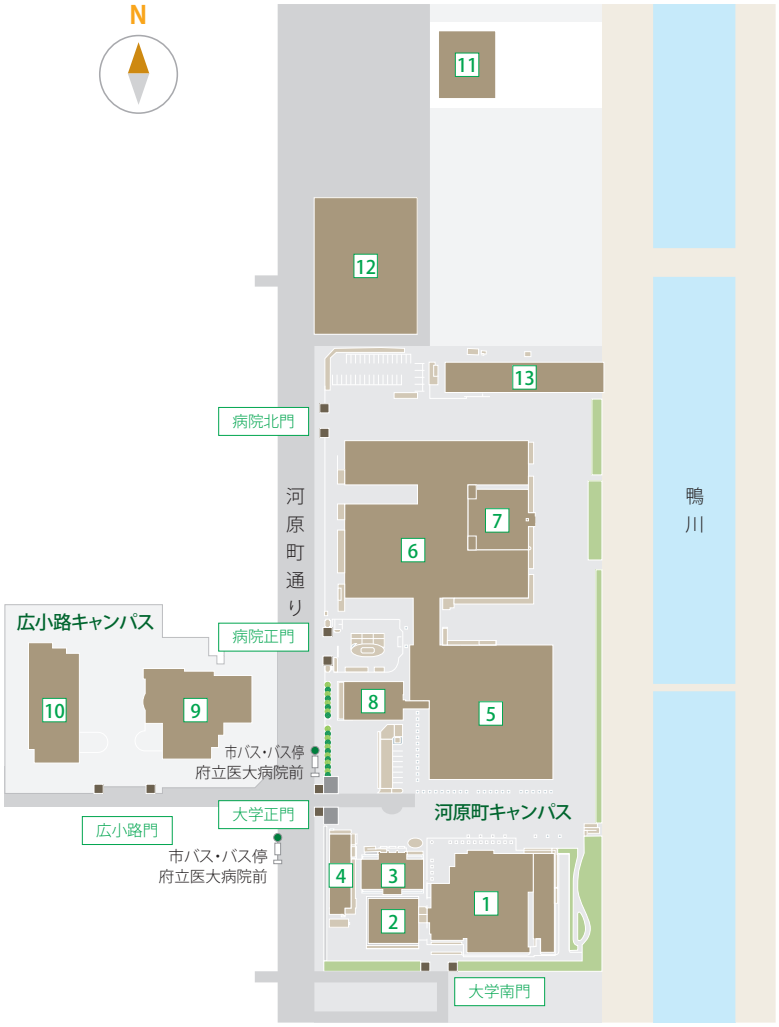
コロナの影響は実習期間に強く表れましたが、幸いにも助産学実習には行くことができました。産婦さんにとっても非常時下での出産。立ち合いもなく一人で初めてのお産を迎えられる方を担当したことは、貴重な経験となりました。

大学周辺、学舎見学ツアー（オープンキャンパス特設サイト）
(https://www.kpu-m.ac.jp/doc/opencampus/)

5

キャンパスマップ（河原町・広小路）・交通アクセス

キャンパスマップ（河原町・広小路）



京都府立医科大学のキャンパスは、附属病院と併設する河原町キャンパスをはじめ、いずれも京都の中心部に位置しています。美しい鴨川沿いにある河原町キャンパスには教育施設の他にも、カフェやレストラン、郵便局やコンビニなどがあり、キャンパスライフはとても快適です。

建物一覧

1 基礎医学学舎
2 基礎医学学舎実習棟
3 大学本部棟
4 管理棟
（1F 生協カフェテリアポレポレ、2F 生協医学部店）
5 外来診療棟・臨床医学学舎
6 病棟（A・B・C・D）・中央診療棟
7 臨床講義棟
8 E 病棟（1F 郵便局、コンビニ）
9 附属図書館・合同講義棟
10 看護学学舎
11 体育館
12 永守記念最先端がん治療研究センター
13 ロームBNCTセンター


1 基礎医学学舎


3 大学本部棟

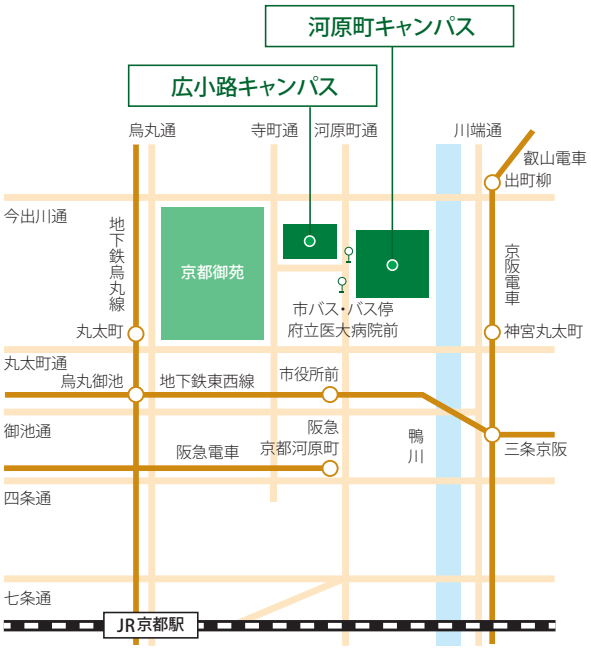

5 外来診療棟・臨床医学学舎


1 基礎医学学舎ロビー


9 附属図書館・合同講義棟


10 看護学学舎

交通アクセス



河原町キャンパス

京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465

広小路キャンパス

京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町410（上京区広小路通河原町西入る）

JR京都駅（正面）から	市バス4, 17, 205系統	「府立医大病院前」下車	河原町・広小路キャンパス
阪急電鉄河原町駅から	市バス3, 4, 17, 205系統		
京阪電鉄三条駅から	市バス37, 59系統 京都バス23, 43系統		
京阪電鉄神宮丸太町駅から	徒歩10分		
京阪電鉄出町柳駅から	徒歩15分		



下鴨キャンパス（稲盛記念会館）

京都市左京区下鴨半木町1-5

JR京都駅・阪急烏丸駅から	地下鉄烏丸線	「北山」下車	徒歩7分	下鴨キャンパス
京阪出町柳駅から	市バス1系統	「府立大学前」下車	徒歩5分	
JR二条駅から	市バス206系統		徒歩5分	



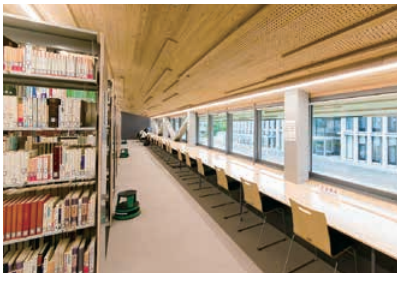
生協医学部店



生協カフェテリア ポレポレ



下鴨キャンパス（稲盛記念会館）



附属図書館下鴨館（京都学・歴彩館2階）



下鴨キャンパス自習室

6

卒業後の進路　減免・奨学金制度等

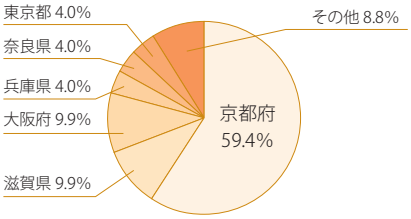
主な就職先

卒業後は、京都府内を中心に様々な医療機関や地方公共団体などへ

医学科（1年目臨床研修病院）

本学附属病院
本学附属北部医療センター
市立福知山市民病院
綾部市立病院
舞鶴医療センター
京都中部総合医療センター
京都第一赤十字病院
京都第二赤十字病院
京都大学附属病院
京都市立病院
京都桂病院
済生会京都府病院
音羽病院
丸太町病院
京都医療センター
京都岡本記念病院
宇治徳洲会病院
京都山城総合医療センター
大津市民病院
済生会滋賀県病院
近江八幡市立総合医療センター
大津赤十字病院
滋賀医科大学附属病院
松下記念病院
大阪警察病院
関西電力病院
淀川キリスト教病院
市立池田病院
高槻病院
地域医療機能推進機構大阪病院
大阪赤十字病院
済生会吹田病院
明石市民病院
神戸市立医療センター中央市民病院
神戸大学附属病院
兵庫県立尼崎総合医療センター
市立奈良病院
天理よろず相談所病院
慶應義塾大学附属病院
筑波大学附属病院
東京慈恵会医科大学附属病院
東京品川病院
北海道大学附属病院
佐渡総合病院
静岡市立清水病院
名古屋医療センター
倉吉中央病院
飯田市立病院

医学科卒業生1年目臨床研修病院 都道府県別割合
（令和3年度卒業生）



看護学科

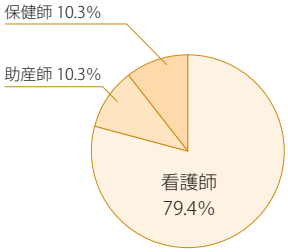
（就職）

本学附属病院
京都大学附属病院
京丹後市立病院
京都第一赤十字病院
京都第二赤十字病院
北山病院
京都岡本記念病院
国立循環器病研究センター
大阪国際がんセンター
市立ひらかた病院
大阪医科薬科大学病院
大阪発達総合療育センター
関西医科大学附属病院
小阪産病院
住友病院
淀川キリスト教病院
奈良県立医科大学附属病院
相和福祉会
国立成育医療研究センター
東京大学医学部附属病院
聖路加国際病院
東京慈恵会医科大学附属病院
高知医療センター
京都府
京都市
宮津市
福岡市

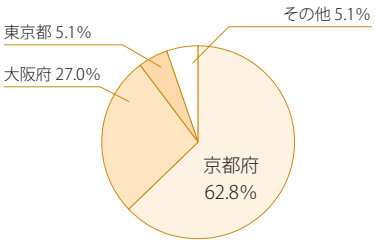
（進学）

京都大学大学院
京都看護大学大学院
岡山大学
島根県立大学
ベルランド看護助産大学校

看護学科卒業生 職種別就職状況
（令和3年度卒業生）



看護学科卒業生 都道府県別就職先
（令和3年度卒業生）



京都府には、本学附属病院（全体の38.5%）を含む。

減免・奨学金制度等

入学金、授業料の減免や奨学金など、経済状況に応じた学費支援制度が利用可能です。

入学料

- **医学科**　府内在住：282,000円　府外在住：493,000円
- **看護学科**　府内在住：169,200円　府外在住：282,000円

授業料（年額）

535,800円（前・後期の区分による年2回の分納となります。）
※金額は令和4年度の金額です。

入学料・授業料の減免

- **入学料の減免**

学資困難その他の事情があると認められた者に対しては、入学料が減免、または徴収猶予される場合があります。

- **授業料の減免**

成績が良好で、学資困難その他特別の事情があると認められた者に対しては、授業料が減免されます。

本学は「大学等における修学の支援に関する法律」が適用されている大学であり日本学生支援機構の給付型奨学金の受給者は国の減免制度が適用されます。

下宿等

本学には学生寮はありませんが、大学の町・京都には昔ながらの情緒ある下宿から、都市型のワンルームマンションまで、学生向けの賃貸住宅が豊富です。

奨学金

- **日本学生支援機構奨学金（貸与奨学金）**

優れた学生で、経済的理由により修学が困難な人に貸与されます。

種類	貸与月額	
第一種奨学金（無利子）	自宅通学	20,000円、30,000円または45,000円
	自宅外通学	20,000円、30,000円、40,000円または51,000円
第二種奨学金（有利子）	20,000円～120,000円（10,000円刻み）	
入学時特別増額奨学金（有利子）	入学月の基本月額に10万円、20万円、30万円、40万円、50万円を増額	

※貸与月額は令和4年度の金額です。

- **京都府立医科大学NIM 奨学金**

医学科卒業生からの寄付を基にして、医学科各学年の成績優秀者に奨学金を交付します。

- **ENT M Dr.浅野登&暉子奨学基金**

次世代を担う医師の育成を図るため、向学心がありながら経済的理由により、修学上必要な学資金（奨学金）を大学在学の期間支給することで修学援助を行う制度です。

- **その他の奨学金**

その他、地方公共団体や民間の事業団体による奨学金制度があります。

減免・奨学金制度についての詳細は、教育支援課（075-251-5167）へお問い合わせください。

7 入 学 試 験 情 報

2023年度　入学試験概要（予定）

学科	試験区分	募集人員	出願期間	試験日
医学科	一般選抜（前期日程）	100	令和5年1月23日（月）～2月3日（金）	令和5年2月25日（土）、26日（日） （追試験：令和5年3月7日（火）予定）
	学校推薦型選抜 （大学入学共通テストを課す）	7	令和5年1月18日（水）～2月3日（金）	令和5年2月11日（土・祝）、又は12日（日）
看護学科	一般選抜（前期日程）	45	令和5年1月23日（月）～2月3日（金）	令和5年2月25日（土） （追試験：令和5年3月7日（火）予定）
	学校推薦型選抜 （大学入学共通テストを課さない）	40	令和4年11月1日（火）～11月8日（火）	令和4年11月26日（土）

※一般選抜（後期日程）は実施しません。　※試験詳細については、必ず各学生募集要項で確認してください。

2022年度　入学試験結果

試験区分別実施状況

学科	試験区分		募集人員	志願者数	第1次段階合格者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願倍率
医学科	一般選抜（前期日程）		100	287	285	265	102	100	2.9
	男女別	男子		176	175	165	63	61	
		女子		111	110	100	39	39	
	現浪別	現役		154	154	142	57	56	
		非現役		133	131	123	45	44	
	学校推薦型選抜		7	16	-	16	7	7	2.3
	男女別	男子		7	-	7	2	2	
		女子		9	-	9	5	5	
	現浪別	現役		13	-	13	6	6	
		非現役		3	-	3	1	1	
看護学科	一般選抜（前期日程）		45	79	79	72	45	45	1.8
	男女別	男子		5	5	5	2	2	
		女子		74	74	67	43	43	
	現浪別	現役		70	70	63	43	43	
		非現役		9	9	9	2	2	
	学校推薦型選抜		40	70	-	70	40	40	1.8
	男女別	男子		5	-	5	3	3	
		女子		65	-	65	37	37	

※一般選抜（後期日程）は実施していません。　※看護学科学校推薦型選抜は、現役生のみ対象です。
※医学科一般選抜（前期日程）の受験生には、追試験受験者を含みます。

一般選抜（前期日程）合格者得点

学科	最高点	最低点	平均点	配点		
				共通テスト	2次学力試験	合計
医学科	808.5	616.5	669.8	450	600	1050
看護学科	874.0	719.0	771.9	900	200	1100

詳細はこちらから（https://www.kpu-m.ac.jp/doc/examination/exam_gakubu/result.html）

京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465
Tel. 075-251-5167（教育支援課入試係）
https://www.kpu-m.ac.jp